

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577100302		
法人名	社会福祉法人 慈光福祉会		
事業所名	グループホーム太陽の家		
所在地	山口県大島郡周防大島町久賀5377-1		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 18 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海も山もあり自然環境に恵まれている。安心・安全にそしてホームをご自分の居場所として楽しく生き活きと暮らして頂けるように職員で意見を出し合い支援している。また、季節を感じていただけるようにホーム内には飾りを工夫している。入所者様の個別ケアに取り組む『希望を叶え隊』として年に1回、入所者様の誕生日に誕生プレゼントとして、入所者様からの希望を叶え喜びや笑顔がたくさん見られるようになり、ホームでの生活満足度が向上し、楽しみのある幸せな生活がおくれるように支援している。また1年に1回、家族会を行っており家族との交流をもっている。隣接地には山中クリニックがあり週1回の回診も含め医療面でも充実して安心でいられる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3577200904-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3577200904-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 1 月 26 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境に恵まれており、利用者は馴染みのある海、山、ミカン畑を眺めながら毎日を過ごしている。理念である”太い絆、陽気な笑顔、のんびり過ごせる、我が家のように”を念頭においた取り組みは、多彩なレクリエーション活動に繋がり、利用者一人ひとりの個性を大切に環境作りとなっている。統括施設長は毎日のレクリエーションを、利用者の能力に合わせて外出支援に積極的に取り組んでいる。島内1週のドライブ、風船バレー等の飽きさせない多彩なレクリエーションは、利用者の”陽気な笑顔”となって表れている。食事の配膳や洗濯たたみ等の能力に応じた役割を担って頂くことは、”我が家で過ごしている”ように一端となっている。利用者の要望する本を家族にお願いして取り寄せたり、いちご狩りに行きたいという思いに、家族がたくさんイチゴを差し入れたりする等、家族と”太い絆”を大切にしている。率先して利用者の立場に立ったケアを行う職員の姿は、介護に対する意識に繋がり、今後も浸透していこうと期待する。「家族と一緒に、利用者が穏やかに過ごせる様に努めている。」と語った管理者の言葉は、まぎれもなく[太陽の家]が目指す温かな施設の指針となっている。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた施設理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は毎朝の申し送りやミーティング時に理念を共有し、利用者とのコミュニケーションを大切に日々の実践につなげている。	理念は、事務所とリビングに職員が手書きしたものを大きく貼り出している。法人の標語として今年は「笑顔でニコニコ介護」を廊下の見えるところに掲示している。朝礼時に理念や職員姿勢5ヶ条を唱和している。法人から異動される職員が多いので、理念は浸透している。	
2	(2)	○施設と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、施設自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為地域との交流は出来なかったが法人の併設施設で開催している新年会には参加したり、施設周辺を散歩したり、敷地内にテーブルを出して昼食やおやつを食べている。	近所を散歩している際に、出会った方と挨拶を交わし、お互いが手を振り合っている光景が微笑ましい。敷地内でのランチタイムやおやつ時に、会話をする場合もある。3ヶ月に1度、散髪ボランティアの方が来られ、フェイシャルやリラクゼーションボランティアは4月より受け入れている。	
3		○施設の力を活かした地域貢献 施設は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けては活かしていない		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が評価の意義を職員に説明し自己評価の用紙を配布し職員からの意見を管理者がまとめている。	職員全員から評価に対する意見を事前に聴取し、主任が取りまとめ、日頃の介護の様子を把握する良い機会となった。外部評価終了後には、職員が閲覧できるように、ファイルを置いて情報の共有ができています。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年9月～運営推進会議は対面で行っている。会議は2ヶ月に一回開催し利用者状況や事業所の取り組みについて報告し質疑応答や話し合いをしている。そこでの話し合いや意見をサービス向上に活かしている。	コロナ前は、書類を直接持参していたが、現在は対面で実施できている。介護保険課、介護支援専門員、地域ボランティアの方、入居者の親戚、元消防OBの方、町内の方、社福の方が参加している。行事や予定の報告、ヒヤリハットや事例について報告を行った。参加者より、花火大会を開催は良い試みだとお褒めの言葉を頂いた。	視野を広げるために、様々な方への参加を促してみたいかでしょうか。
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、施設の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者とは、直接出向して更新の手続きを行った。電話で相談して助言を得るなど日頃から、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報を交換し連携を図っている。	窓口へは主任が直接出向き、「よろしくお願ひします」と一言添えるようにしている。統括施設長が市の各種委員を担っており、情報の共有ができています。事故報告書の提出時や相談事がある場合には、担当窓口を訪ねることを基本としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は法人内の身体拘束や虐待についての研修会に参加し2ヶ月ごとの運営推進会議時には身体拘束委員会で話し合い拘束や抑制をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックがあった場合職員間で注意しあっている。	法人全体の身体拘束委員会に参加している。研修では、法令の確認やスリーロックや声のトーンの確認もできた。演習では事例を取り上げて、グループ学習を行っている。スピーチロックにならないように、言葉を付け加えて説明をする工夫が見られた。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や施設内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修を行い全職員が防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、制度を活用する機会はない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は利用者や家族等の不安や疑問点を聞くようにし、十分な説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受け付け体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時や電話などで家族から意見や要望を聞いている。玄関には意見箱を設置している。毎月事業所だより送付時に担当職員が近況報告と写真を添付し年3回送ったり家族が意見要望を言いやすい雰囲気作りに取り組んでいる。	面会は玄関先にて短時間で実施できている。コロナ5類以降は、全員の家族が面会に来られた。毎月、太陽の家便りを発行し、4ヶ月に1回、担当職員による手紙も同封している。以前から、いちご狩りに行きたいと言っていた方がいて、家族に相談したら、大量のいちごの差し入れがあり、職員や他の利用者と一緒に食したら喜んで頂けた。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日々の業務の中で職員の意見を聞き、業務改善や勤務変更など、職員からの提案や意見はその都度話し合って運営に反映させている。意見の内容によっては、毎月開催される主任会議で代表者に伝えている。	毎月の職員会議にて意見を吸い上げている。日々の業務の中でもお互い意見が言い合えている。特養からの異動職員や10年以上勤務の方が多いので、お互いの思いを把握しやすい。利用者からキーボードが弾きたいとの声が上がると、職員がキーボードを渡したら、部屋で弾き語りをして、満面の笑みを浮かべていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は他業務で多忙なため勤務状況の把握は出来ていない。管理者がすべてにおいて把握しており必要に応じて管理者から代表者に報告している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は法人が一括管理しており該当者があれば参加の依頼があるが新型コロナの影響で参加出来ていない。法人研修が年2回あり、処遇、身体拘束、認知症などのテーマに学んでいる。内部研修は年2回計画的に行っている。	年2回の法人研修では、身体拘束、感染予防、事故防止対策、褥瘡予防、食中毒、虐待について実施した。また、年5回のGH内研修では、接遇、口腔ケア、緊急時の対応、量からの移乗、感染症について学びを深めた。	職員の理解度を把握する上でも、何か工夫を凝らしてみたいかがあるか。
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県グループホーム協会の研修や岩柳地区の交流会があるが、日々の業務の為出席できる回数が少ない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からも話を聞き、困っている事や不安な事などに耳を傾け、本人が安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方から話を聞き、困っていること、不安な事や要望等に耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族としっかり話しをして、一番必要としている支援を見極めている。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし話したり、色々な習慣を教わったりしながら、暮らしを共にする家族のような関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナ感染予防の為制限ありの面会やオンライン面会で様子を見ている。また、電話や手紙などで家族との絆をたいせつにし共に本人を支えている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染予防の為制限ありの面会やオンライン面会をしている他、年賀状や手紙、電話での交流を支援している。また、自宅周辺や海辺をドライブして車中から懐かしい景色を眺めるなど馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	面会は玄関先にて短時間で実施できている。コロナ5類以降は、全員の家族が面会に来られ、毎週来られる家族の方もいる。娘さんが図書館で借りた本を待ち遠しくされている方もいる。地元出身の方が多く、大島一周をして海や山を眺め、自宅周辺をドライブして、昔懐かしい思いに馳せている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食堂で過ごすときは自由に座ってもらい、利用者同士が助け合い、支え合えるような支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係を絶つことなく、経過を見守っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り生活歴や趣味などを確認している。分からないことがあれば本人・家族に聞くようにしている。 日常生活の中で利用者様と交流しながら思いや意向を把握していく。	入居時に、フェイスシートにて生活歴や趣味を把握している。あまり言葉を発しない方へは、家族から聞き取っている。入浴時や居室での1対1の場面で意見が出やすく貴重な場となっている。地元大島はみかんが有名で、みかんが食べたい利用者がいれば、近所の方から差し入れをして頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や今までどのように生活してきたかを聞くようにしている。入居後も利用者や家族との会話の中で把握していくようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状を把握し毎朝利用者の表情や状態を察し可能な力を発揮できるように支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心として本人の思いや家族の意向を参考にして月1回担当者会議を開催し介護計画を作成している。チェック表を作成し介護計画の支援状況を毎日記録している。一カ月後とにモニタリングし3ヶ月ごとに見直ししている。利用者の状態に変化があった場合その都度見直し現状に即して介護計画を作成している。	入居時に暫定プランを立てて、3ヶ月以内に見直し、何もなければ半年毎に見直ししている。その人らしく生活できるようにプランを作成している。月1回の担当者会議を開催して、意見を集約している。モニタリングは1ヶ月毎に行い、3ヶ月毎に見直ししている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子を記録し、職員間で情報を共有している。またその情報をふまえて職員会議で介護計画の見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための施設の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズにその都度対応できるように心がけている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゆる体操、読み聞かせ会、折り紙教室に毎月ボランティアに来てもらっていたがコロナ禍のため職員が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と施設の関係構築を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。週1回訪問診療がある。職員が利用者の状況を医師に口頭で伝えている。併設の特別養護老人ホームの看護師と協力関係を築いている。受診後は家族に情報を伝えている。緊急時と夜間はかかりつけ医が24時間対応している。他科受診は家族の協力を得て支援し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医は全員が協力医に転医している。24時間365日対応で、日中は特養に看護師が常駐しているので安心できる体制が整っている。協力医で対応が難しい場合には、紹介状を書いて頂き、病診連携を取っている。週1回の往診があり、ドクターと利用者の関係も良好である。他科受診は、家族の方が連れて行く。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	新たに外傷が見つかったり、体調の変化が見られたりしたときはすぐに隣接の特養の看護師に相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時病院側に利用者の状態を説明する。また、その後は必要に応じ病院関係者に連絡とり、退院支援に結びつけている。入院の際にはサマリーを渡し医療機関との情報を共有している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、施設でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について家族に説明する。重度化した場合は、早い段階で家族、かかりつけ医と相談し、医療機関への入院や併設の特別養護老人ホームへの移設を含めて、方針を決めて全職員で共有して支援に取り組んでいる。	入居時に、看取りは実施していない旨を伝えている。終末期を迎えた際には、併設する特養に移られる方が多い。重度化した際には、ドクターを交えて、本人や家族の意向を聞き取っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	事例が発生した場合はその場にいた職員で話し合い、事故・ヒヤリハット報告書に記入し家族に報告している。他の職員には引継ぎで説明し提示して共有し利用者1人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当・初期対応は内部研修をしている。	運営推進会議にて、事故報告やヒヤリハットについての報告を行い、家族とも報・連・相が培われている。職員間で事例検討を行い、改善措置についても話し合いを行っている。内部研修では、緊急時の対応について学んだ。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の併設施設と合同で年2回昼夜を想定した火災時の避難、通報、消火訓練、年1回風水害を想定した避難訓練を実施する。地域との協力は自治会と協議中でこれから築き上げる予定である。	年2回、昼夜想定で火災訓練を実施し、利用者と一緒に避難することができた。年1回、風水害を想定した訓練も実施している。連絡網は事務所に掲示していて、実際に経験する訓練もできた。備蓄は、併設する特別養護老人ホームで一括管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりの人格の尊厳やプライバシーの確保について理解し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応している。利用者の個人情報も適切に保管され、守秘義務は職員間で徹底している。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。反応がよい場合には、たまに別の呼び方で呼ぶ場合もある。年1回、接遇研修を実施して、接遇マナー5原則や意識すべき3つのポイントについて学んだ。利用者の個人情報は、事務所の鍵付きの書棚にて保管している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話をあまりされない、みんなの輪の中に入る事を苦手としている利用者にも、寄り添い話を傾聴し、本人の希望を少しでも聞くことが出来るように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が時間に追われることが多く、職員側の都合を優先してしまうこともあるが、利用者の訴えに出来るだけ早く対応できるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床後に、鏡を用意し整髪、おしぼりを用意して顔を拭いてもらっている。 入浴後には、化粧水で保湿をおこない身だしなみができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、外部に受注を行っているが、食事は併設の特別養護老人ホーム所属の調理員が、食事時間ごとに準備を行っている。また年に1回嗜好調査を実施し、毎月給食会議で好みや希望を伝えている。利用者はトレーや食器拭き、盛り付け、おしぼり巻きなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事(おせちやひな祭りの寿司、ソーメン流し、クリスマス)や毎月の誕生日食、2ヶ月に1回毎のランチ食があり、手作りおやつも季節に合わせて利用者と一緒に作り、食べる事を楽しむ支援を行っている。	3食ケータリングで併設する特別養護老人ホームに食事が届き、行事食にも対応している。できる利用者には、盛り付けや配膳、食器拭きを手伝って頂いている。夏には竹を使ってソーメン流しを実施したら喜んで頂けた。月1~2回おやつ作りの日を設けていて、善哉やどら焼き、ケーキやかき氷を作った。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部受注所属の栄養士が立てた献立による食事により栄養のバランスをとっている。さらに食事、お茶の時間に充分水分をとってもらい、あまり飲まない方には、飲みやすくなる工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをしたり、歯ブラシを手渡したり、その人にあわせた口腔ケアを行なっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	トイレは2ヶ所あり、カーテンを敷いてプライバシーに配慮している。ポータブルトイレを使用している方はおらず、トイレ誘導を行っている。布パンツで過ごされている方も2名おられる。退院後、オムツだった方が、トイレ誘導や言葉掛けを繰り返した結果、布パンツにまで改善された事例もある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を多めにしたり、腹部マッサージをしたりと個々に応じた予防をしているが、薬に頼っている人が多い。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日13時15分頃から15時30分まで可能で、午後に行事がある時は午前10時から11時30分までの間に一人ひとりの希望に応じて支援している。袖子湯や入浴剤を利用して入浴を楽しんでいる他、利用者のその日の体調や希望によって、清拭や足浴、シャワー浴で対応している。入浴したくない利用者には、タイミングをずらしたり、職員を変えて言葉がけをするなど工夫をしている。	週2～5回の提供で、毎日入られる方も2名おられる。便失禁があった際には、入浴するようにしている。季節湯としてゆず湯の提供や入浴剤を使用して気分転換を図っている。浴槽に浸からない場合には、清拭や足浴、シャワー浴で対応している。脱衣所は、冷暖房完備でヒートショックにも対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、睡眠に乱れのある人は原因究明、対応の検討を行い、支援している。また、日中散歩やレク活動を通じて夜間の安眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、個々に応じた服薬の支援をしている。症状の変化については主治医に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じた個々の力を活かし活躍できる場面作りをしている(洗濯たみ・洗濯干し・テーブル拭き・トレー拭き・おしぼり巻き・茶碗洗い)コロナ禍ではあるが一人ひとりの活躍できる場面作りをして楽しみ事や気分転換の支援を行っている。	できる利用者には、食事の盛り付けや配膳、食器拭きの役割を与えている。洗濯物干しや畳むのを手伝ってくれる方もいる。毎日レクリエーションを実施していて、体操や歌を歌って、日常生活での楽しみを増やしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事務所周辺の散歩や敷地内での日向ぼっこ、テーブルを出してのランチ、おやつタイムを行っている。また車窓からチューリップや桜、あじさいなど季節の花を楽しんだり、自宅周辺、道の駅、海岸線をドライブしたり車中でおやつを食べるなど利用者全員で戸外に出かけられるように支援している。	月1回、統括施設長がドライブへ連れて行き、桜や鯉のぼりを眺めたり、海を見ながらコーヒーやみかんを食べたりした。雨の日は大島を一周することもある。気候の良い日には、外でランチを楽しみ、夏には花火大会も開催できた。誕生日には、いちご狩りへ出掛け、ケーキを食べたり、ショッピングセンターで服を買いに出掛けた。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しいため個々に所持できない。家族より預かり、金庫に保管している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話や手紙に応える形でやりとりがスムーズにいくように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはいつも季節の花を飾っている。食堂は広々として明るく、テーブルと椅子を配置して利用者は思い思いの場所に座って団欒している。壁面には季節に合わせた作品や利用者の習字、塗り絵、カレンダー、ホームだよりを飾って季節を感じられるようにしている。室内は窓を開けて換気に注意し、気温や湿度にも配慮して居心地良く過ごせるよう工夫している。	リビングでは、季節が感じられるように、毎月利用者と一緒に作成した作品が飾られている。統括施設長と利用者が一緒に風船バレーを楽しんでいる様子が窺え、時には「アタックNo.1」を歌いながらトスを上げている姿が微笑ましかった。席が隣同士の方は、会話を楽しんでいる姿も窺えた。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の横に居間があり座ったり寝転んだりくつろげるようになっているがほとんどテーブルで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、テレビ、鏡台、ぬいぐるみなどを持ち込み、家族の写真、行事の写真などを飾り居心地よく過ごせるように工夫している。	備え付けは、ベッド、エアコン、畳、押し入れ、洗面台。扉は広く開閉でき、車イスにも対応している。居室では、TVやラジオを聴いて過ごしたり、川柳が好きな方は、詩を詠んで自分の思いを綴っている。昔、自分が描いた絵や孫・ひ孫の写真を大切に飾っている部屋もあった。写真のアルバムを見ながら、昔を思い出している利用者もいる。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設内部については主にバリアフリー、手すりがつけてあり、安全に生活が送れるようになっている。またトイレの場所がわかるように表示し、自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない